

## 2016年9月26日 日本テレビ 定例記者会見

### 《 要旨 》

#### < 発表 >

##### ・ 映画「真田十勇士」 公開

9月22日に「真田十勇士」を公開した。これは舞台と同時期に公開するという初の試み。非常にスケールの大きい映画になっている。ぜひ劇場に足を運んでいただきたい。

##### ・ 「アンパンマンフェスティバル」 開催

1988年10月3日にアンパンマンの放送が開始されたことを記念して、この日を「アンパンマンの日」とし、3日から10日まで、汐留の日本テレビ社屋でアンパンマンフェスティバルを開催する。体験型アトラクション等、盛りだくさんの内容になっている。ぜひお越しいただきたい。

#### 1. 視聴率動向と編成戦略

##### ・ 視聴率データ

先週は12週連続の三冠王を獲得することができた。年間38週中35回の三冠王。年度では23回目の獲得。年間、年度では共に途中経過ではあるものの、三冠王を継続している。

##### ・ 7月クールの視聴率動向と10月クールの編成戦略

7月クールについては、水曜ドラマの「家売るオンナ」は平均視聴率11.6%で終了し、民放ドラマでは最高平均視聴率だった。私たちも含めて民放各局、視聴率の面ではドラマ全体が低調だったが、内容では質の高いものがあったと思っている。

日本テレビが担当したオリンピック中継も、日本人選手の頑張りでかなり盛り上がり、視聴率も想定以上に獲得できた。24時間テレビはドラマ「盲目のヨシノリ先生」が20%を超え、全日全体でも15.4%の視聴率を獲得できた。フィナーレは25.8%ということで、例年どおり内容も充実しており、結果もついてきた。

10月には大幅改編はしないが、すでに水曜日19時の「1周回って知らない話」は9月に前倒しスタートし、初回の2時間スペシャルは11.9%、9月14日のレギュラー放送回は12.9%で、新番組のスタートとしては好調だった。

10 月期に改編するドラマは、水曜「地味にスゴイ！校閲ガール・河野悦子」、土曜「ラストコップ」、日曜「レンタル救世主」で、すでにご案内しているとおり。ラストコップは Hulu との連動もある。

## **2. 営業状況**

### **・放送収入**

8 月の放送収入は、タイムは全体として前年を上回った。スポットはオリンピックの影響で、地区投下率全体が前年より 10%弱落ちており、日本テレビも同様に 90%を少し超えるくらいの水準だった。しかし、オリンピックのタイムの放送収入は大きく、タイム、スポットを合計すると 8 月の放送収入は前年を少し上回るという水準で着地できた。9 月は大きな特殊要因もなく、ほぼ前年並みかと思う。

上期の営業状況はまもなく確定するが、全体にはオリンピックの単発のタイム収入が大きかったことと、レギュラーの視聴率が好調に推移しており、放送収入も比較的安定しているということで、ほぼ前年並みかややそれを上回る見通しだ。

### **・放送外収入**

幹事作品の「ルドルフとイッパイアッテナ」が 8 月 6 日から公開中。これは児童文学を原作にし、日本テレビの映画としては初めて、フル 3DCG に取り組んだ作品。現在 51 日間の公開で、120 万人という非常に多くの方にご覧いただいている。

また、イベントでは「ドラゴンクエスト ライブスペクタクルツアー」があり、日本テレビがゼロから制作した初めてのアリーナショーで、全国 5 会場で開催した。最終的に 30 万 8,000 人の方にご覧いただき、目標にしていた 30 万人の動員を達成できた。ゼロから創ったため困難はあったが、多くのお客さまに来ていただいたことは非常にありがたく、大きな成果を生んだ。

さらに夏のイベントとして「超☆汐留パラダイス」を開催し、今年は 182 万人のお客さまにご来場いただいた。アンパンマンズノーパークや、ビア・カフェなど、新たに内容を充実させたことでお客さまに喜んでいただいたと思う。

## **3. その他**

### **・タイムシフトとリアルタイム視聴**

ビデオリサーチ社の視聴率調査が、リアルタイム視聴・タイムシフト視聴の調査サンプルを統合し、同一の 900 世帯で実施されることになる。調査対象の世帯数が増えるので、

よりデータの正確性が向上するかと思うが、実際にどのようなデータが出てくるかはまだ分からない。データが出たらしっかり分析し、番組をより良くするための1つの材料として生かしていく。またスポンサーに対しても番組の良さをアピールする材料として使っていきたい。

## ・海外ビジネスの展開に関して

先日放送されたドラマ「ガードセンター24」は、日本と海外で同時放送された。これは日本の民放初の取り組みである。東南アジアで展開しているGEMで放送したものだが、一般的には権利の問題等もあるためなかなか簡単にはできないことだ。今回の「ガードセンター24」は、番組の制作プロデューサーやディレクターが東南アジアや中国等を視察した中で、日本のコンテンツを海外に出し、日を置かずに東南アジアでも放送することに成功した例である。

今後もGEMの事業の拡大、日本のコンテンツの東南アジアでのさらなる展開を進めていくために力を入れていくつもりだ。環境を整えながら着実に拡大していきたい。

## ・4K・8K 放送に関して

総務省が実用放送の実施主体の公募を始めたが、社としての最終的な方針決定はしておらず、現在では検討段階だ。民放事業者は事業性ということを考えなくてはならない。4Kの将来性については徐々に普及はしていくだろうが、受信機の普及や番組の制作等のコストはどうなるか、そういったことを考えながら私たちも対応していく。

## 【出席者】

大久保好男 代表取締役 社長執行役員  
中山良夫 取締役 執行役員 事業局長  
福田博之 執行役員 編成局長

(了)